

アラフォー出産増加！！『産み時』選び・・・

現在、35歳から44歳までの女性が、次々と子どもを産んでいる。はやりの言葉で言うのであれば、アラフォー（アラウンド・フォー・フォー＝40歳前後＝）世代の初産のことである。アラフォー世代の出産＝「高齢出産」とは、35歳を過ぎての初産、また40歳を過ぎての二回目以上の出産のことを言うらしい。

妊娠・出産・育児情報を提供するサイト「babycom」主催の「マタニティ・ヨーガクラス」（東京・恵比寿）の例である。参加者約20人のうち、35～40歳代前半はおよそ3分の1であった。講師は、「出産年齢が全体的に上がったので、20代は『若い』、35歳で『普通』である。都会だからかもしれませんが、40歳以上は珍しくない」と述べている。



体の使い方を学ぶ「マタニティ・ヨーガ」 →
40歳代の妊婦は珍しくない(東京・恵比寿で)

読売新聞

2007年12月19日

一 統計からみる現状 一

厚生労働省の人口動態統計をみても、年々、特に35歳以上の出生数が増加していることがわかる。約10年の間に35歳以上の母による出生がおよそ2倍も増加している。

●母の年齢別にみた年次別出生数・百分率及び出生率(女性人口千対)

	1970	1980	1990	2000	2003	2004	2005	2006
出生数								
総数	1,934,239	1,576,889	1,221,585	1,190,547	1,123,610	1,110,721	1,062,530	1,092,674
20～24	513,172	296,854	191,859	161,361	142,068	136,486	128,135	130,230
25～29	951,246	810,204	550,994	470,833	395,975	370,220	339,328	335,771
30～34	358,375	388,935	356,026	396,901	408,585	415,903	404,700	417,776
35～39	80,581	59,127	92,377	126,409	139,489	150,222	153,440	170,775

40～44	9,860	6,911	12,587	14,848	17,478	18,790	19,750	21,608
45～49	523	257	224	396	402	483	564	522
50～	25	1	-	6	19	16	34	9
出生率(人口千対)								
20～24	96.5	77.1	44.8	39.9	38.2	37.4	36.6	37.6
25～29	209.2	181.5	139.8	99.5	90.7	88.5	85.3	87.8
30～34	86.0	73.1	93.2	93.5	87.1	87.5	85.6	89.9
35～39	19.8	12.9	20.8	32.1	33.9	35.7	36.1	38.1
40～44	2.7	1.7	2.4	3.9	4.6	4.9	5.0	5.6
45～49	0.2	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1

(厚生労働省 人口動態統計データベースシステムより)

アラフォー出産の増加は、晩婚化の影響もある。ただ、人口動態統計では、2000年の女性の平均婚姻年齢は28.2歳、2006年で29.6歳である。確かに遅くなったが、それだけが増加の要因とも思えない。

第1子を出生する年齢も年々高くなってきている。

●出生順位別にみた年次母の平均年齢

	総数	第1子	第2子	第3子
1970	27.5	25.6	28.3	30.6
1980	28.1	26.4	28.7	30.6
1990	28.9	27.0	29.5	31.8
2000	29.6	28.0	30.4	32.3
2003	30.0	28.6	30.7	32.5
2004	30.2	28.9	30.9	32.6
2005	30.4	29.1	31.0	32.6
2006	30.5	29.2	31.2	32.8

(厚生労働省 人口動態統計データベースシステムより)

— 実際の声 —

●「40歳前後で『駆け込み出産』する女性が多い」というのは、出産経験者のインタビューから「女の産みどき」(WAVE出版)を書いた大内悦子さん。「仕事も結婚も今は辞める選択ができるけれど、子どもを産んだら親を辞めることはできない。どうしようかと決めかねているうちに、40歳になり、『できちゃったら産もう』と運を天に任せる人も多いのでは」と話す。

●妊娠中の千葉県の会社員（39・仮名）も「40の声が迫った時、産むなら今しかないと思った」と言う。30歳代半ばは「まだ余裕がある」と思っていたが、だんだんと「産む限界」の更年期が迫ってきていた。年齢に加えて、仕事の天井も見える。「このまま仕事を続けても、女性の部長は社内におらず、せいぜい課長。そんな人生でいいのかと考え直した」。人生の「リセット」の意味も込めて、産み時を選んだという。

●出産医療ライターで「未妊 『産む』と決められない」（NHK出版）を書いた河合蘭さんは、「アラフォー世代の先輩たちは、男女雇用機会均等法以前に仕事を始め、仕事か家庭かどちらかを選ばなきゃいけなかった。その姿を見てきたアラフォー世代は両方どちらもバランス良くと考えている」と話す。

2007年12月19日 読売新聞

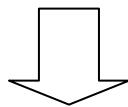


— 35歳すぎに起こる体の変化・・・(高齢出産のリスク) —

- ・ 卵子の質の低下 — それにより、妊娠や流産の確率が変わり、胎児の先天的な異常が増える可能性がある。
- ・ 婦人科疾患の増加 — 年齢とともに子宮内膜症などが増え、妊娠に適した骨盤内の環境が後退することが受精や着床率にも影響を及ぼす。



このような体の変化があるから専門家は、体の変化を見据えて「産み時」を考えて、と助言している。医学は進歩しても人間の体の仕組みや働きは変わらない。35歳を過ぎると変化が始まることを知ってもらいたいと専門家は話す。



！！ 現状 ！！

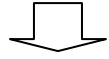
しかし！！日本では、避妊について学ぶ機会があってもこのような体の変化について学ぶ機会があまりない・・・。最近、出産に年齢的な制約があると広く認識されるようになったが、現在40歳前後の人が30歳代前の頃にはこのような情報は存在していなかったのである。

そして、35歳を過ぎて病院へ行くと「あなたの年齢では妊娠の可能性は低くなる」といわれショックを受ける女性もいた。年齢とともに誰でも妊娠しにくくなる、30歳代前半をめどに優先順位を明確にして出産することが望ましい。また、妊娠・出産には時間がかかることを念頭に置く必要がある。

2007年3月1日 読売新聞

●高齡出産時の問題点●

- ・微弱陣痛になる
- ・子宮頸管が柔らかくなりにくくなり、子宮口の開きや膣、会陰などの伸びが悪くなる



- ・吸引や鉗子分娩、帝王切開になることがある
- ・分娩遷延がおこる
- ・出産後の母体の回復が遅くなる

— 体験談から考える高齡出産のメリット(実際のアンケートより) —

今回のアンケートから高齡出産（アラフォー出産）のメリットともいえるポジティブな意見もあった。

①母の年齢が高いため精神的に安定している。

…若いときには思う通りにいかなくて子どもに暴力もあった。もっと遊びたいと思うようになった。自分の育児に自信が持てなかったが、ある年齢を過ぎて出産を経験するとゆったりと育児できるようになった。

②経済力があるので心配が少ない。

③仕事もひと段落したところで子育ても楽しめる。

All about 妊娠・出産・教育 2005年08月15日

— 考察 —

現在、統計から見ても出産は高齡化している。大きな原因の1つが勤労女性の増加であり、晩婚化である。出産と仕事は大きなかかわりを持っていることが考えられる。働く女性にとって、「いつ子どもを産むか」は、人生やキャリアにもかかわる重い課題である。働き始めて仕事に慣れ、ひと段落するのは35歳頃であり、その頃に出産を考え始める女性も少なくない。

最近、出産における年齢的な問題が広く認識されるようになってきており、高齡出産といわれるとマイナスの情報が多く、否定的に受け止めることが多くなっていると思う。そのため、35歳を境に焦る女性が増えるのではないかと考える。子どもが欲しくてもできず、不妊に悩む女性はますます自信をなくしていくという問題も出てくるのではないか。

高齡出産のリスクは実際存在する。当然、女性の年齢に伴う身体的変化から妊娠・出産時のリスクは若年よりも高くなっている。しかし、高齡出産自体はメンタル面や経済面などにおいてメリットであることも多い。経済的にも安定し出産への経済的不安は少なく、精神的にも安定して

いることから出産・育児を肯定的に受け止めることができると思われる。最近、増加傾向にある虐待事件では、虐待をしているのは若年であることが多い。心のゆとり、安定感が育児には大切であるといえるのではないか。マイナスイメージばかりにとらわれすぎる必要はない。現代社会の母子問題を見てみると母親の精神面、社会面の安定は不可欠であり、高齢出産は、リスクよりもメリットの方が大きいのではないかと感じる。

仕事と出産・育児の両立は、この先も完全に解決することはできない問題だと思うが、社会的な対策は必要である。「産み時」の選択には、その人の思い、望みが最も尊重されるべきである。しかし、現在ある『子ども子育て応援プラン』や『健やか親子21』など政府・市町村の政策を伝え、理解してもらい、少しでも「産み時」の選択の参考にしてもらいたい。もし、高齢出産を選択した場合も自信を持って欲しい。パートナーや家族、周囲の支えは出産を乗り越える自信につながると思う。そして、私も産科の専門職としてその人の望みをできる限り叶えてあげられるように努力したいと思う。



<引用・参考文献>

- ・読売新聞：2007年3月1日、2007年12月19日
- ・All about 妊娠・出産・教育：2005年08月15日
- ・厚生労働省ホームページ：人口動態統計データベースシステム
- ・<http://allabout.co.jp/children/childbirth/closeup/CU20050810A/index.htm>
- ・高齢出産について：<http://www.welcomebaby21.com/kourei.htm>